

ショートコメント vol.132 (2019年3月20日)

テーマ：変化するインバウンドの観光ルート
～関西ではゴールデンルートの比率が低下～

●ゴールデンルートから周遊型の観光へ

従来、訪日客の観光ルートといえば、関東と関西をめぐる「ゴールデンルート」が有名であったが、その傾向が変わりつつある。

関西のゴールデンルートの玄関口は京都であるが、訪日客が京都を出た後の動きに変化がみられる。国交省の「訪日外国人流動データ」によると、ゴールデンルートへの動きが頭打ちとなる一方、関西にとどまる動きは増え続けている(図表1)。これは、訪日客の間で関西を周遊するタイプの観光が増えてきた証拠といえるが、注目されるのは、この変化が関西特有という点である。

というのも、関東や東海にはこの傾向があまりみられない。例えば、東京、大阪、愛知を出た後の動きを比べると、その違いがはっきりと表れている。

●三大都市圏での比較

例えば、東京や大阪を出た後、同一都市圏内に向かう比率が高ければ、周遊型の観光が成り立っていると考えられるが、図表2～4をみると、それが当てはまるのは関西に限られる。

大阪を出た後の動きで最も多いのは、空港(関空)からの帰国であるが、京都、奈良、兵庫への移動も多く、全体の約4割を占めている。

それに対し、東京の場合、同一都市圏内への移動は神奈川や千葉を中心に約2割という状況である。全体として目立つのは空港(成田、羽田)への移動であり、全体の4割強を占めている。つまり、東京を出た後は、そのまま帰国する比率が高いことを意味している。

愛知に至っては、同じ東海エリアへの動きは、岐阜を中心に全体の1割にとどまる。東京や大阪、京都への移動がそれを上回っていることから、他地域への流出が多いことを意味している。

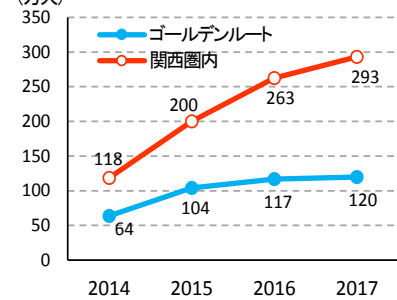
つまり、三大都市圏で三者三様の動きがみられる中で、周遊型の特徴があるのは関西に限られるといえよう。

●周遊型観光のメリット

関西を周遊する動きが増えている要因には、やはりリピーターの増加が挙げられる。定番のゴールデンルートから、自分なりの旅行にシフトする中で、周遊型の観光が増えたと考えられる。

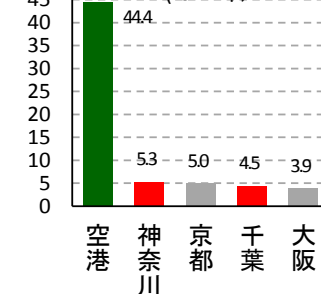
その際には、豊富な観光資源の存在も大きな役割を果たしたといえよう。関西には、大阪や京都、奈良を中心に世界的な観光スポットが点在

【図表1】 京都を訪問後の訪日客の行き先 (万人)

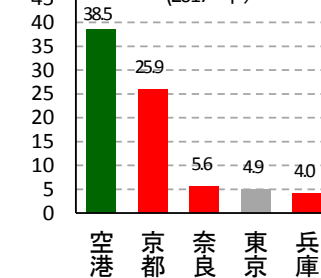


(出所)国交省「訪日外国人流動データ」、以下同じ
※ゴールデンルートは愛知、山梨、静岡、神奈川、東京、千葉

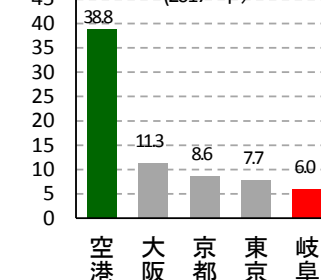
【図表2】 東京訪問後の行き先 (2017年) (%)



【図表3】 大阪訪問後の行き先 (2017年) (%)



【図表4】 愛知訪問後の行き先 (2017年) (%)



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

するため、もともと周遊の動きが生まれやすい素地が備わっている。

これらを背景に周遊の動きが増える中で、関西には大きなメリットが生まれている。まず挙げられるのは、滞在期間の延長による消費の増加であろう。ゴールデンルートを通る場合は、関西と関東で消費を分け合う形となるが、周遊型であれば大部分が関西に集中する。

また、今後に向けても、リピーターを飽きさせないという点で大きな効果が期待できよう。全国的にリピーターの増加が進む中、いずれ各地域がその対応を迫られることは避けられない。その際、多様な観光ルートが強みとなることは間違いなく、関西の優位性は高いといえよう。

本件照会先:大阪本社 荒木秀之
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。